



「私のペースでしおりは進む」

「私のペースでしおりは進む」 図書館通信10月号に紹介された今年の読書週間の標語です。10月27日から11月9日までの2週間は読書週間であることも通信には載っていましたね。新刊図書の紹介があり、いつも楽しみに見えています。その中で最近図書室から借りて読んだ本は、『ものがわかるといふこと』でした。この本を選んだきっかけは、「知ることは自分が変わる」と紹介されていたこと、たまたまその作者をテレビで見っていたことだけで、探していた本ではありませんでしたが、紹介文に引き付けられました。本との出会いってそんなものかもしれませんね。

さて今回、読書の大切さについて、少し考えて欲しいと思いました。

「書物は、人の精神の食物なり。一日食せざれば人の肉体餓うるがごとく、一日読書せざれば人の精神は餓えむ」という言葉があります。これは文学者大町桂月の言葉です。「本は心のご飯」「読書は心の栄養」ともいわれていることだと私は思っています。

「〇〇の秋」といわれる様々な秋の表現がありますね。運動にもとても良い季節であり、おいしい食べ物も豊かに実ることから、「スポーツの秋」、「食欲の秋」といわれます。また体の栄養だけではなく、絵画や名曲に触れること、書物を通して心にも栄養を与え、人として大きく成長するにもとても良い季節であることから、「芸術の秋」とか「読書の秋」ともいわれるのだと思います。

本を読むことで頭の中にある脳のつながりが強化され「記憶力」や「集中力」が向上するといわれていますが、本を読むことのよさは、それだけではありません。会話や文章力の向上、語彙が豊かになる、教養や知識が身につく、相手の気持ちがわかるようになる、そして嫌なことがあってイライラするとき、読書をするすることで心の落ち着くかせることにつながるといった効果があります。年をとってうまく言葉が話せなくなった人が読書をしたら、また話せることができるようになったという話もあります。

最近、活字離れが進み、時間があれば読書をというより携帯等で時間を費やす人も多くなっていると思います。勉強のために本を読むわけではありませんが、「読書尚友」という言葉もあるように書物を読むことによって過去の著名な人との会話を楽しむこともできます。また、書かれている内容から自然と想像力を働かせることもできます。学校では朝読書の時間もありますが、秋の夜長、下校してからのちょっとした時間に、読書好きの人もそうでない人も、今までよりも少し読書を取り入れてみませんか。実りの秋、心にもたくさんの栄養を取り入れてもらえればと思います。

保護者の皆様へ

文化発表会、体育大会へ多数のご参加ありがとうございました。4月に実施しました全国学力・学習状況調査の結果や本校の課題等学校ホームページに掲載いたしましたので、Googleなどで「上中学校」と検索し上中学校|生駒市公式ホームページよりご一読ください。